

teniteoクリニック

子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今月のテーマ

とびひ

<対象年齢> 0～6歳>

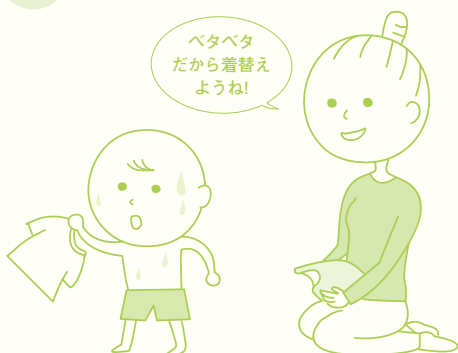
“とびひ”にかかると前に

“とびひ”は気がついたらあつという間に広がってしまうため、日々の生活の中で予防することが一番大切です。以下のことを日々心がけておきましょう。

予防のために気をつけよう！

1 虫刺されやあせも、キズなど軽い皮膚トラブルでも、放置せずに短期間で治すように心がけましょう。

2 汗をかいたらすぐシャワーでさっと汗を流す。こまめに着替えるなど、皮膚を清潔に保つようにしましょう。



こまめにチェック /

3 爪の中や鼻には菌がいることが多いので、爪は短く切り、鼻を触らないように注意しましょう。手洗いも重要です。

4 兄弟がとびひになったら、一緒に入浴や水遊びをすることは避け、とびひの子は最後に入浴させましょう。

Q 園には行ってもいいの？ プールは？

A 病変部がきちんとガーゼで覆ってあれば、園を休む必要はありません。病変が広範囲であったり、発熱がある場合は、お休みしましょう。プールの水ではうつりませんが、肌と肌が触れ合う場面が多いため、完全に治るまでプールはお休みしましょう。



これから季節は要注意！
子どもの間で流行しやすい“とびひ”

“とびひ”は、
夏 子どもの間で流行する。とびひは、
火事のように火の粉が飛び散って燃え
広がるのと同じように、あつという間に周囲
に広がることから、そう呼ばれています。水
ぶくれを作る“水疱性膿痂疹”とかさぶたを
作る“痂皮性膿痂疹”の2種類があります。
子どもの間で流行するのは、主に水ぶくれを
作るタイプです。虫刺されやあせもで掻いた
部位、アトピー性皮膚炎で掻いた部位に、細
菌が感染し発症。顔や手足など露出してい
るところから発症することが多く、最初は透明
な水ぶくれですが、次第に内部が濁って膿の
ようになります。それが破れ、皮膚がめくれ

た“びらん”という状態になり、その内容液が
皮膚に付着することで、周囲にも広がります。
感染した場合の治療は、抗菌薬の内服が基本
です。病変部を触ると周囲に感染する恐れがあ
るので、軟膏を塗り、病変全体をガーゼで覆っ
て対処します。症状が軽い場合、外用治療だけ
で治ることもあります。重症化すると、黄
色ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群（※）といっ
て、発熱や全身がやけどしたように赤くなり、
入院が必要になることも。最近では、抗菌薬の
効きにくい細菌による“とびひ”も増えている
ので、薬を数日内服しても改善がない場合は、
薬の変更が必要になることもあります。

※SSSS:staphylococcal scaled skin syndrome



●監修
萩原 里香先生

平成26年より名古屋掖済会病院皮膚科勤務。幅広い年齢層の炎症性皮膚疾患から皮膚腫瘍まで診療、わかりやすい診療を行っています。



名古屋掖済会病院

愛知県名古屋市中川区松年町4-66

☎052-652-7711 ④土・日・祝、年末年始

<診察時間>初診 / 8:00～11:30、再診 / 7:30～11:30

http://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp/